

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成24年7月19日(2012.7.19)

【公表番号】特表2009-545089(P2009-545089A)

【公表日】平成21年12月17日(2009.12.17)

【年通号数】公開・登録公報2009-050

【出願番号】特願2009-522818(P2009-522818)

【国際特許分類】

G 0 6 F 13/00 (2006.01)

G 0 6 F 12/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 13/00 5 2 0 D

G 0 6 F 12/00 5 4 6 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年5月30日(2012.5.30)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

UPnPネットワークを通してファイル位置をリモート・クライアントに提供する、コンピュータにより実行する方法であって、

前記コンピュータが、UPnPデバイス記述を前記リモート・クライアントに供給することによって、前記リモート・クライアントに利用可能なUPnPサービスを特定するステップと、

前記コンピュータが、複数のサーバー・メッセージ・ブロック(SMB)経路からユーザーがアクセス可能な特定のコンテンツ項目への、利用可能で最も直接的なSMB経路を選択することにより、コンテンツ・レポジトリ内に配置された発見可能オブジェクトをSMBシェア位置にマッピングするステップであって、前記複数のSMB経路は、前記特定のコンテンツ項目に対し利用可能であり、前記最も直接的なSMB経路の特定は、前記リモート・クライアントの証明書を使用して前記リモート・クライアントになりすますことを含む、ステップと、

前記コンピュータが、前記リモート・クライアントから前記特定したUPnPサービスへのブラウズ・コマンドまたは検索コマンドに回答して、前記利用可能で最も直接的なSMB経路およびSMBシェア位置を露出するステップと、
を含む、方法。

【請求項2】

請求項1に記載の方法であって、前記コンピュータが、前記特定のコンテンツ項目への前記最も直接的なSMB経路を要求するシェルAPIをコールする更なるステップを含む、方法。

【請求項3】

請求項2に記載の方法であって、前記コンピュータが、前記リモート・クライアントに回答して、前記シェルAPIによって戻された経路を含ませる更なるステップを含む、方法。

【請求項4】

請求項1から3のいずれかに記載の方法において、前記発見可能なオブジェクトは、音

楽、ビデオ、画像、ゲーム、ニュース、またはデータのうち1つから選択したメディア・コンテンツ・データの1つ以上の離散断片を含む、方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】発明の名称

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【発明の名称】ユニバーサル・プラグ・アンド・プレー発見項目のSMB位置に対するマッピング

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0001

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0001】

デバイス・レベルでのプラグ・アンド・プレー(PnP)能力の追加により、周辺機器を消費者用電子デバイスおよびパーソナル・コンピューターに設定し、構成し、追加することが非常に容易になった。ユニバーサル・プラグ・アンド・プレー(UPnP(商標))は、この簡素さを拡張してネットワーク全体を含むようにし、ネットワーク取付プリンター、インターネット・ゲートウェイ、および消費者電子機器のような、ネットワーク接続デバイスおよびサービスの発見および制御を可能にする。UPnPネットワークング・プロトコルは、UPnPフォーラムによって公表されている。UPnPフォーラムは、多くの異なる販売業者からのスタンド・アロン・デバイスやPC間における簡単にロバストな接続を可能にするために設計された業界の創意である。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0006

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0006】

所望のコンテンツ項目を特定した後、例えば、XML文書におけるリソース即ち<res>タグを用いて、リモート・デバイスはコンテンツ・ディレクトリ・サービスからの転送プロトコル情報を用いて、それをリモート・デバイスにおけるメディア・プレーヤの能力と照合する。共通転送プロトコルは、例えば、HTTP GETおよびRTSP/ RTP(リアル・タイム・ストリーミング・プロトコル、リアル・タイム・トランスポート・プロトコル)を含む。次いで、転送されたコンテンツは、別のUPnPサービス(AVトランスポート制御サービス)または非UPnP帯域外プロトコルを用いて、リモート・デバイスによってレンダリングされ、コンテンツのフロー(例えば、停止、早送り、巻き戻し、一時停止等)を制御する。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

UPnPデバイスが、UPnP発見コンテンツ項目をサーバー・メッセージ・ブロック(SMB)位置にマッピングするサービスを露出する構成を提供する。サービスは、SMBシェア経路を、UPnPプロトコルを用いてリモート・コンテンツにおいて要求するユーザーに露出するように構成されている。次いで、ユーザーには、SMBプロトコルを通じてシェア(share)へのアクセスが可能となり、発見したコンテンツ項目のファイル・ア

クセスを得ること、書き込みを変更すること、またはファイル・レベルの制御を施行することができる。任意に、認証を利用して、ユーザーがSMBシェア位置をサービスから受信することを許可されていることを確認するか、またはユーザーがSMBシェアにアクセスすることを許可されていることを確認する。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

種々の例示的な例では、コンテンツ項目を個々のユーザーおよびファイルに対して最も直接的に利用可能なSMB位置にマッピングする。既存のUPnPサービスを拡張するか、または新しいUPnPサービスを利用し、要求側ユーザーに対するXMLフォーマット化した応答に含まれる追加の<res>タグの使用によって、UPnPブラウザまたは検索コマンドに**応答して、SMB位置を要求側ユーザーに露出する。**

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

【図1】図1は、UPnPを利用するように構成されている例示ホーム・ネットワークの図式表現である。

【図2】図2は、例示のサーバーおよびクライアント・アーキテクチャのブロック図である。

【図3】図3は、コンテンツ・ディレクトリ・サービスと制御点との間における例示のメッセージ・フローを示す図である。

【図4】図4は、コンテンツ・ディレクトリ・サービスと制御点との間における別の例示のメッセージ・フローを示す図である。

【図5】図5は、SMB経路を含む<res>タグを含む例示のXML文書である。

【図6】図6は、コンテンツ・ディレクトリ・サービスを要求側ユーザーに提供する例示の方法のフローチャートである。

【図7】図7は、SMBシェア位置を特定し、要求側ユーザーに露出する例示の方法のフローチャートである。

【図8】図8は、内部に収納したディレクトリ構造を示す例示のコンテンツ・レポジトリのブロック図である。

【図9】図9は、SMBサーバーとSMBクライアントとの間における例示のメッセージ・フローを示す図である。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

UPnP発見項目をSMB位置にマッピングする本構成を用いると、家族は居間123に集まって、PC110上に格納されている写真を大型画面テレビジョン128上で見ることができる。PC116を用いると、家族は居間123から写真に格付けを行い、これらを回転させ、更に写真の名称変更も行うことができる。これらの能力は、UPnPおよびHTTPの目視特性を用いつつ、本構成にしたがってファイル動作をSMB上において追加することによって可能となる。例示の家族写真は、PC110上に格納されており、

図 1 に示すように、P C 1 1 0 に結合されているモニター上に画像 1 5 0 A として送り込まれ、大型画面テレビジョン 1 2 8 上では画像 1 5 0 B として送り込まれ、ゲーム・コンソール 1 3 2 に結合されているモニター上では画像 1 5 0 C として送り込まれる。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 9】

メディアレンダラーUPnPデバイス228は、制御点251を含む。この例示の例では、制御点251は、UPnP制御点であり、メディアレンダラーUPnPデバイス228に埋め込まれている。メディアレンダラーUPnPデバイス228は、サービス上でアクションを呼び出しつつ、要求されたあらゆる入力パラメーターを供給し、あらゆる出力パラメーター、サービス応答、および戻り値を受信する。メディアレンダラーUPnPデバイス228は、通例、UPnPフォーラムが公表した定義に準拠して、サーバー・デバイス205から受信するコンテンツ項目をレンダリングする能力を有するクライアント・デバイス212をインスタンス化するメディアレンダラーとして構成されている。メディアレンダラーUPnP228は、レンダリング制御の集合を露出するように構成されるのが極普通であり、この場合、制御点251は、個々のコンテンツ項目をどのようにレンダリングするかを制御することができる。UPnP発見項目をSMB位置にマッピングする代替構成では、メディアレンダラーUPnPデバイス228は、任意に、サーバー・デバイス205およびクライアント・デバイス212が非UPnP（即ち、帯域外）通信プロトコルを用いて互いに相互作用を行う場合にも利用される。例えば、Windows Media PlayerおよびRoku（商標）SoundBridgeを用いて、コンテンツ項目をレンダリングすることができる。

【誤訳訂正 10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 1】

図 3 は、コンテンツ・ディレクトリ・サービス 2 4 0 と制御点 2 5 1 との間における例示のメッセージ・フローを示す図である。制御点 2 5 1 は、SSDP（簡易サービス発見プロトコル）を用いて、発見メッセージ 3 0 3、通例、M-検索コマンドを送ることによって、ホーム・ネットワーク 1 0 2（図 1）のようなUPnPネットワーク上にある他のデバイスを発見するために用いられる。コンテンツ・ディレクトリ・サービス 2 4 0 は、XMLフォーマット化したデバイス記述文書のURI（ユニフォーム・リソース識別子）を収容するSSDPメッセージを用いて、M-検索コマンドに回答する。一方、デバイス記述文書は、利用可能なサービス毎にXMLサービス記述文書 3 0 6 の位置を収容する。制御点 2 5 1 は、例えば、HTTPによってサービス記述文書 3 0 6 をダウンロードすることができる。このため、メディアサーバーUPnPデバイス 2 2 2 は、コンテンツ・ディレクトリ・サービス 2 4 0 を制御点 2 5 1 に露出することができる。

【誤訳訂正 11】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 2】

図 4 は、コンテンツ発見サービス 2 4 0 と制御点 2 5 1 との間における他の例示のメッセージ・フローを示す図である。制御点 2 5 1 は、Windows Negotiate、Kerberos、NTLM

等のような認証プロトコルを用いて、コンテンツ・ディレクトリ・サービス 240 に接続する。いずれの認証プロセスの使用も任意である（図 4 において破線 406 で示す通りである）。コンテンツ・ディレクトリ・サービス 240 と制御点 251 との間における認証交渉に成功した場合、制御点 251 は、HTTP による SOAP メッセージ 413 を用いて、検索またはブラウズ・コマンドをコンテンツ・ディレクトリ・サービス 240 に発行することができる。コンテンツ・ディレクトリ・サービス 240 は、XML 文書 418 を用いて検索またはブラウズ・コマンドに回答して、SMB 位置 にマッピングされる発見コンテンツ項目について、通例エントリの中でもとりわけ <res> タグ・エントリを露出する。このマッピングについては、図 6 から図 8 に付随する文章において以下で説明する。

【誤訳訂正 12】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0026

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0026】

図 7 は、前述の方法 600（図 6）において提供するコンテンツ・ディレクトリ・サービスを用いて、SMB シェア 位置 を特定し、要求側ユーザーに露出する。先に記したセキュアコンテンツディレクトリ・サービスは、方法 700 を実行するために使用可能である。あるいは、既存の UPnP コンテンツ・ディレクトリ・サービスを拡張して、図 7 に示すステップを実行してもよい。

【誤訳訂正 13】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0033

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0033】

図 7 に戻って、メディア・サーバー・サービスは、ブロック 721 において、要求側ユーザーの証明書を用いて、要求側ユーザー になりすます。ブロック 726 において、メディア・サーバー・サービスは、要求されたファイルまでのローカル経路を用い、なりすました要求側ユーザーとして行動することによって、シェル API（アプリケーション・プログラミング・インターフェース）をコールして、要求されたファイルまでの最良の SMB 経路を要求する。シェル API がある SMB 経路を返した場合、メディア・サーバー・サービスは、要求側ユーザーの検索またはブラウズ・コマンドに対する XML 応答に含まれる <res> タグに、この経路を含ませる。これは、ブロック 731 に示す通りである。例示の方法 700 は、ブロック 740 において終了する。

【誤訳訂正 14】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0043

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0043】

以上、UPnP 発見項目を SMB 位置 にマッピングする種々の例示の構成および方法を示し説明したが、添付する特許請求の範囲は必ずしも記載した具体的な特徴、構成、または方法のいずれにも限定されるのではないことは理解されてしかるべきである。逆に、具体的な特徴、構成、または方法は、以下で更に特定の特許請求するが、UPnP 発見項目を SMB 位置 にマッピングする例示の形態として開示したのである。

【誤訳訂正 15】

【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】
【図7】

FIG. 7

700

